

2026年03月27日

【本邦における無痛分娩の転帰に関する解析】 に対するご協力のお願い

研究代表者 所属 国立成育医療研究センター
職名 診療部長
氏名 小川 浩平

このたび、日本産科婦人科学会データベース事業（周産期登録）を用いた下記の医学系研究を、日本産科婦人科学会の許可ならびに国立成育医療研究センターの倫理審査委員会の承認のもと、倫理指針および法令を遵守して実施しますので、ご協力をお願いいたします。

この研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を診療された施設（分娩した施設）までお申し出下さいますようお願い申し上げます。

1 対象となる方

西暦 2020年01月01日より2024年12月31日までの間に日本産科婦人科学会の周産期登録参加施設で分娩となった方のうち、分娩時に無痛分娩併用で分娩管理をした方（実際に経膈分娩にならなかった方も含みます）。

尚、ご自身が当該施設で分娩されたかどうかは公益社団法人 日本産科婦人科学会ホームページ (https://jsog.members-web.com/hp/search_facility) で確認することができます。

2 研究課題名

施設倫理審査委員会の承認番号 2025-286

日本産科婦人科学会の許可番号 2025-3

研究課題名 本邦における無痛分娩の転帰に関する解析

3 研究実施機関

国立成育医療研究センター 産科 小川浩平

4 本研究の意義、目的、方法

本研究では、日本産科婦人科学会が収集している「周産期登録データベース（※）」を用いて、無痛分娩に関する診療情報を分析し、無痛分娩が母子に与える影響（帝王切開や器械分娩の発生率、分娩時の出血量、新生児の健康状態など）を調査することを目的としています。

無痛分娩とは、硬膜外麻酔という方法を用いて分娩時の痛みを和らげる方法であり、背骨の近くに細い管（カテーテル）を留置して麻酔薬を持続的に投与することで、産痛（出産時の痛み）を軽減するものです。無痛分娩は欧米などの先進国では約60%の妊婦が選択しており、一般的な分娩方法のひとつとされています。日本ではこれまで無痛分娩の割合は限られていましたが、2007年の調査

では全体の 2.6%であったものが、2023 年には 3.8%へと増加しており、今後もそのニーズはさらに増えると予想されています。

無痛分娩には、痛みを和らげる効果に加えて、分娩時の疲労や身体的負担を軽減する効果があります。特に心臓や肺に疾患をもつ妊婦さんにとっては、出産時の酸素消費を抑え、心肺機能への負担を軽くできることが期待されます。また、妊娠高血圧症候群の妊婦さんにおいては、無痛分娩で使用される麻酔薬による血管拡張作用によって、分娩中の血圧上昇を抑える効果があるため、医学的に推奨されることもあります。

一方で、無痛分娩には一定のリスクも指摘されています。たとえば、吸引分娩や鉗子分娩といった器械的補助が必要となる分娩の割合が増加する傾向があり、それに伴って分娩に関連する合併症のリスクが高まる可能性もあります。こうしたメリットとリスクを正しく理解したうえで、安全かつ適切な周産期管理を行うためには、無痛分娩に関連する影響を科学的に明らかにすることが重要です。

こうした背景から、本研究では、全国規模の大規模データベースを活用し、日本における無痛分娩の実態や合併症との関連について、信頼性の高いデータに基づいた調査を行います。

本研究の成果を広く発信することにより、出産を控える妊婦さんやそのご家族が、無痛分娩のリスクとベネフィットを正しく理解したうえで分娩方法を選択できるようになることを目指します。そしてそれによって、次世代を担う子どもたちと、その子どもを育てるお母さん、さらにはご家族が、より健康で安心した生活を送るための一助となることを期待しています。

5 協力をお願いする内容

本研究では、皆さまの分娩に関する医療情報を研究に活用させていただきたく、ご協力をお願い申し上げます。具体的には、2020 年 1 月 1 日から 2024 年 12 月 31 日までの期間に、日本産科婦人科学会の周産期登録データベース登録事業に参加している医療機関で分娩された妊婦さんの臨床情報を用いて、無痛分娩に関連する周産期リスク因子を調査いたします。

● おもな調査項目

母体：分娩異常（回旋異常、分娩停止など）の発生頻度、器械分娩率、分娩時外傷、大量出血、出血量、輸血、羊水塞栓症、弛緩出血、DIC、癒着胎盤、胎盤用手剥離、緊急帝王切開、母体死亡

胎児・新生児：胎児機能不全の発生頻度、出生後 5 分値 Apgar スコア、臍帯動脈血液ガス pH、NICU 入院率、胎児死亡、新生児死亡

● 曝露因子：脊椎麻酔、硬膜外麻酔、CSEA (combined spinal-epidural anesthesia、脊椎・硬膜外併用麻酔)

● 関連因子：

母体：年齢、経産、ART 妊娠、身長、体重、妊娠前 BMI、妊娠中の体重増加量、妊娠合併症（妊娠糖尿病、妊娠高血圧症候群）、分娩週数、前期破水の有無

胎児・新生児：出生体重、児の性別

6 本研究の実施期間

西暦 2026 年 3 月 9 日 (研究実施許可日) ～2029 年 03 月 31 日

7 プライバシーの保護について

本研究で取り扱う患者さんの情報は個人情報をすべて削除し、第3者にはどなたのものか一切わからない形で日本産科婦人科学会から提供され、使用します。患者さんの情報と個人情報を連結させることはありません。

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）より、【情報の利用や他の研究機関への提供（研究内容に応じて適宜記載）】の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合は診療のために受診された施設へのご連絡をお願いいたします。

研究代表者

国立成育医療研究センター 産科 小川浩平

TEL: 03-3416-0181 FAX: 03-3416-2222

Email: ogawa-k@ncchd.go.jp

日本産科婦人科学会事務局

TEL: 03-4330-2864 FAX: 03-4330-2865

Email: nissanfu@jsog.or.jp